

## スピードスケート列伝 1

### ★ スケート短距離の世界情勢

バンクバー五輪のスピードスケート。

我々、陸上経験者にとっても「冬の最速王」の決定戦は大いに興味がある。なによりも春高陸上部には宮部くんという銅メダリストがいるので、その興味はなおさらだ。

500mという短距離最速王・金メダルに輝いたのは、常勝・カナダでも強豪・欧州でもなく、アジア選手の上位独占となった。

男子は 金・牟 太釩（韓国） 銀・長島（日本） 銅・加藤（日本）




女子は 金・李 相花（韓国） 銀・J ウォルフ（独） 銅・王（中国）

決勝ベスト10のうちアジア勢が男女とも6人を占め、スピードスケートは「アジア勢力」の台頭が顕著になった五輪だった。牟 太釩は続く1000mでも堂々の2位銀メダルを獲得している。

### 男子500m・最終順位 公式記録

(日本時間)02月16日13時10分現在


順位	選手	国	タイム
1	Tae-Bum Mo	 韓国	69.82
2	長島 圭一郎（日本電産サンキョー）	 日本	69.98
3	加藤 条治（日本電産サンキョー）	 日本	70.01
4	Kang-Seok Lee	 韓国	70.041
5	Mika Poutala	 フィンランド	70.044
6	Jan Smeekens	 オランダ	70.21
7	Fengtong Yu	 中国	70.23

8	Jamie Gregg	 カナダ	70.26
9	Jeremy Wotherspoon	 カナダ	70.282
10	Zhongqi Zhang	 中国	70.288

### 女子500m・最終順位 公式記録

(日本時間)02月17日09時14分現在

順位	選手	国	タイム
 1	Sang-Hwa Lee	 韓国	76.09
 2	Jenny Wolf	 ドイツ	76.14
 3	Beixing Wang	 中国	76.63
4	Margot Boer	 オランダ	76.87
5	吉井 小百合 (日本電産サンキョー)	 日本	76.99
6	Heather Richardson	 米国	77.17
7	Shuang Zhang	 中国	77.33
8	Peiyu Jin	 中国	77.45
9	Hyon-Suk Ko	 北朝鮮	77.47

10	Christine Nesbitt	 カナダ	77.57
----	-------------------	---	-------

かつてはスケート大国であったカナダ、オランダなどは、主要な短距離では勝てなくなった。体格にもコーナー走の器用さも本当はアジア人ほどの体格が向いているのか……。

いまだ500mの世界記録は男子がカナダ、女子はドイツが保持する。ワールドカップなどでも圧倒的に欧州アメリカの優位は動かない。しかし今回の五輪を見る限りではアジアの台頭は明らかである。やはり「専門大会」のワールドカップと、「国家行事」の五輪の捉え方の違いであろうか……。

人口、経済ともに世界を凌駕する中国の存在も大きいだろう。

### ★ロシアの衰退と中国の台頭

1964年の冬季五輪以来、スケートのペアはソビエト（ロシア）が金メダルを独占してきた。バレエの本家であるソビエトは、その芸術性センスは他を圧倒していた。シンクロナイズドスイミングの世界でもそうであるように。

しかしついにその長い歴史に終止符がうたれた。

半世紀近く続いた「芸術性」のロシアスケートペア種目。その牙城を崩したのは「中国」であった。ロシアはメダルからも漏れた。時代の終焉を迎えたのだ。

フィギアスケートでも男子の前回王者・ロシアのプルシエンコ選手は敗れた。

高橋だいすけ選手が銅メダル獲得したことは大いなる喜びだし、3人全員入賞となつては、女子に並び、日本のフィギアは素晴らしい流れがあると思う。永年の努力が実ってきたのだろう。

しかし、その一方で「芸術性」より「大技」の得点制度が、競技の流れを大きく変えた原因かなと感じている。私たちが学生のころ、飛び跳ねる大技よりもクラシックバレエのような「優雅な舞」が魅力だった。私なぞがみても、「白鳥の湖」を踊るソビエトのペアはなんと美しいのか……まるで映画のシーンを見ているようにと見入ってしまったほどだ。

しかし現在のスケートは「体操」のように難易度の高い技をいくつこなすか……の点数になっている。是非は別にして、「美しさ」よりも機械的「型」のスケートになりつつあるように感じるのは、やや寂しい気もする。

このようにかつては「冬季五輪最強」であったソビエトの陥落は、政治混迷であったことは言うまでもない。国家戦略であったスポーツ分野が、かつてのようなエリート育成システムを構築できなくなったからだ。

夏よりも冬の競技のほうが、インフラ設備に莫大な維持管理費がかかる。

日本でさえ維持費にかさむスケート場は年々減っている。これは政治問題というよりは、経済の悪化で大企業の設備投資が減ったためだ。

だから中国は強い。いや、弱くなる理由がない。  
経済は世界最強だし、人口も最多、広大な土地・・・なにより国家戦略としてのスポーツに重きを置いている。まさに冷戦のころの東欧諸国と似ている。

昨夜、テレビでカーリングを見ていた。  
日本も頑張っているが、現在の世界選手権覇者は、やはり中国なのだそうだ・・・

スピードスケート列伝2 「世界記録保持者」の憂鬱へ